

## SDGsの達成に向けた重点的な取組み宣言書

作成日: 令和5年8月23日

事業者名: 飛騨高山よしま農園

三側面	SDGsの達成に向けた重点的な取組み	関連するSDGsゴール (最大3つ)	実績	指標・目標	
環境	肥料農薬堆肥を使わない自然栽培やさい生産の実施。食品添加物を使わない加工品の製造を行うことで、すべての人に安定した食の提供（飢餓貧困をゼロに）とすべての人に健康を実現する	①貧困をなくそう, ②飢餓をゼロに, ③すべての人に健康と福祉を	肥料農薬などを使わない農業を実施することにより、環境保全に配慮しながらも、人にとって健康を実現する食の提供を行っている。また基本的食糧増産のための技術開発に貢献することで貧困飢餓を防ぐための現場での実証を行っている。	指標	環境保全型農業の実施面積
				目標	環境と水に配慮した技術による農業生産面積現在3ヘクタールであることを今後は近隣遊休農地を活用することで2028年までに約5ヘクタールまで規模拡大することを目標とする
社会	学校給食への有機農産物活用の積極的働きかけ	⑫つくる責任 つかう責任, ⑬気候変動に具体的な対策を, ⑯安全な水とトイレを世界中に	●2022年、学校給食オーガニック化に向けてセンター方式の新築給食センターの建設の見直しのための署名活動への協力。 ●2023年3月、学校給食のオーガニック化、食の安全性について、周知努力として講演会 ●2023年7月、食の安全フォーラムにおいて学校給食オーガニック化についてのトークセッション登壇 ●2023年8月、市議会議員益田氏主催タウンミーティングにて説明	指標	学校給食の有機農産物使用割合
				目標	高山市では現在約10件の有機農業（環境保全型農業）実施者がいるが、2030年までに実施者を100件までに拡大。国の定める、みどり戦略に添った形で目標を実現化する。生産拡大に伴い、学校給食の食材の有機農産物使用量を2033年までに、お米100%、ほか野菜類を40%を占めるように目標をたてる。
経済	環境保全型農業、有機農業実施に関する講演会、セミナー実施による、周知活動。農業のみならず社会システムと各産業の連携による環境保全型農業の拡大が地域社会を経済的に永続的に発展させてゆくものと確信する。発展することで森と海の環境改善にも貢献（特に上流域である町の責務として）。すみよいまちづくりには農業振興が重要な産業となる	⑪住み続けられるまちづくりを, ⑭海の豊かさを守ろう, ⑮森の豊かさも守ろう	R5年1月、3月、7月有機農業講演活動、特に環境について、食の安全についての内容	指標	有機農業実施者数
				目標	高山市では現在約10件の有機農業（環境保全型農業）実施者がいるが、2030年までに実施者を100件までに拡大。国の定める、みどり戦略に添った形で目標を実現化する
ガバナンス	チェック				
	<input checked="" type="checkbox"/>	SDGsの達成に向けた重点的な取組みが従業員に共有されており、かつ達成するための仕組みが組織内に構築されている（PDCAサイクル等）。 <具体的な内容を記載>  定期的なミーティング実施により根幹をなすSDGs理念を理解するための教育を行っている			
	<input checked="" type="checkbox"/>	SDGsの達成に向けた重点的な取組みをホームページ等で対外的に公表している。  <a href="https://www.yoshima.net/mu/">https://www.yoshima.net/mu/</a> 環境保全型農業に特化した独自のサイトを開設。国内外に周知活動を行っている			